

平成26年度 第2回理事会 議事録

日 時 平成26年9月20日（土）15時00分～16時40分

場 所 北農健保会館3階 特別会議室

出席者 近藤龍夫、嶋倉 昭、高坂 猛、渋谷研一
大江憲一、須田正毅、田中昌幸、杉木 恵
春間好実、櫻庭功一、碓井喜晴、山田伸二
西谷光司、西谷清之、高橋克徳、関原榮司
三浦義廣、山内孝夫、中川裕行、宮原 勉
奈良孝伸、鈴木佳次、大橋公徳、島崎真知子
丸山道博

1 開 会（総務委員長）

※理事32名中24名の出席により、本日の理事会は成立する事が報告された。

2 会長あいさつ（近藤会長）

5月末の理事会は欠席し皆さんにご迷惑をおかけした。6月に道経連の会長を退任したが、その後、北海道観光振興機構会長に就任した。官と民の違いを1つにしていかなければと考えている。道の観光予算も40億円から80億円に増えたとはいえ、韓国では500億円と大きな差がある。観光は経済効果、速効性もあり重要な産業として行きたい。

ワールドグランプリ・ファイナルで女子が銀メダルを獲得した。2020年の東京五輪バレーボールメンバーが道内から誕生することを願っている。このためには、道内での国際大会開催や全日本チームなどの合宿誘致に積極的に取り組むことが必要と考えている。

3 協議事項

※規約第34条に基づき、会長に議長を務めていただく。

（1）議事録署名人の選出

・会長から、議事録署名人に会長のほか島崎理事、杉木理事の2名を指名し、承認される。

（2）平成26年度特別会計（特別事業等基金）補正予算案について

・総務委員長から補正予算案の提案理由について次のとおり説明される。

今年3月に芦別市で開催された男子Vプレミア大会で100万円程の収支不足が生じ、色々と手を尽くしたが約42万円不足のため、4月10日付けで東空知協会から助成金の申請が提出された。Vプレミアリーグ等助成金要綱に基づき21万円を助成したく、特別事業等基金の補正予算についてご承認願いたい。

・三浦理事から次のとおり追加説明がある。

芦別市はJTサンダースの合宿を15年継続しており集客も十分見込めると思っていたが、入場料で44万円減収し、除排雪費で39万円の支出増、セブンイレブンへのチケット販売委託手数料14万円など予想外の出費で100万円の不足が生じた。東空知協会、芦別協会、サポーターズクラブからの支援で圧縮されたが42万円赤字であり、よろしく願いたい。

⇒特に意見等はなく、原案のとおり承認された。

(3) 平成27年度北海道バレーボール協会全道・全国大会競技日程案について

・杉木競技委員長から資料に基づき説明される。

⇒各大会の日程等に変更があり、訂正したものを各理事に送付することを確認し、開催地等については承認された。

4 報告事項

(1) 平成26年度協会運営の基本方針に沿った各委員会の取組みに係る中間報告

・理事長から今年度の5つの方針について分野別について報告され、詳細については各委員会から説明される。

・競技委員会から参加チームの拡大では、9人制の社会人大会と富樫杯を実連と共催したことで参加チームの増加がみられることが報告される。

・大江副理事長から審判委員会関係では、若手の育成で今年度から日B級審査会を毎年開催すること、また、大学リーグの日程やレフリーキャンプも新たな取り組みにより進行中であることが報告される。

・強化委員会からは、計画に基づき進行中であることが報告される。

・指導普及委員会からは、ジュニアキャンプの参加者が100名減っており、チーム・選手の減少が深刻であるため、増加策について検討していることが報告される。

・総務委員会からは、オリンピックに向けた合宿誘致を各自治体で進められていることが報告される。

<質疑等>

○合宿誘致の関連で、芦別市の油谷体育館はJOCの合宿地に認定を受けているが、薩摩川内がJVAを通じJOCに申請している。合宿地の決定は監督の希望が強いので働きかけを工夫してはどうか。

○油谷ではJTサンダースが16年、JTマーヴェラスが6年合宿しており、子ども達も高いレベルのプレーをみて向上するし、審判員の技術向上に資すると思う。

⇒北海道に是非来ていただきたい、という思いで道協会として対応していく。

(2) 収入・支出予算の検討等の状況

・総務委員長から資料に基づき説明がされる。

今回の目的は、道協会財政運営の確立が命題であり収支の内容について検討を始めた。

収入面では、6年間で賦課金と参加料で200万円、登録料で160万円減となっており、経費節減に努めているが財政調整基金に依存している現状であり、財源確保策として、全ての加盟団体から基本金の徴収、賦課金や参加料の見直し、役員協力金の復活やスポンサーの発掘、用品の斡旋などを検討している。

また、支出面では、加盟団体への助成費をはじめ、全国大会費助成費、各種大会費助成、各委員会活動費なども総点検しているところ。なお、5年後のシミュレーションを行い、12月理事会には提案したいと考えている。

<質疑等>

○ムダはダメだが、ただ支出を削るだけではモチベーションが下がる。加盟団体の話を聞く

必要もあるほか、協力してもらうための見返りも必要ではないか。

○ママさん連盟はチーム登録はしていないが賦課金は収めている。他の連盟では賦課金がなくとも助成金を出している。

・会長から次の考え方が示される。

2020年に東京オリンピックもあり良い節目。新しい時代に向かって点検は必要であり、我々の活動がこのままで良いかなど、やめるのも、大きくするもの、加えるものを整理すべきで、あせらずしっかりと時間をかけて実行していく。そのための検討組織を作って進めていくべきではないか。

⇒さらに検討を深めていくことを確認した。

(3) 各委員会等から

①日協関係

○全国ブロック理事長会の結果が理事長から報告される。

・2015年に函館市体育館のコケラ落として、Vプレミアリーグの開催を希望している。

・ビーチバレーが2016年の岩手国体から正式種目に決定したこともあり、ビーチ連盟の道協会傘下への加盟に関する検討が急がれる。

・クラブカップ9人制男子鹿児島大会が台風の影響で中止になった。危機管理マニュアルを参考に、自然災害等における大会開催中止の取り扱いが設定された。

・9人制のプロジェクトで、ルール変更も含めた検討が進められている。

・ビーチバレーが国体正式種目になったため、9人制復活はその後の検討課題である。

・U14の大会運営に関する日本協会の助成はH28から廃止となる。このため、道協会はヤングに一本化する方向で検討を進める。なお、東北ブロックではH27からブロック大会を行わない予定である。

・国体ブロック代表数について北信越ブロックから1増の要望があったが、下山本部長に一任となった。

・ビンテージ8大会はH26、27が沖縄開催、H28、29は北海道開催を予定している。

・JVAビーチバレーボールセンター設立の手引資料が配布されたが、詳細は後日説明される予定。

②総務委員会

・北海道教育庁から外部指導者登録の働きかけがあった。

③競技委員会

・総合大会開催要項を協会HPで掲載した。

・千歳で天皇杯・皇后杯があり男女とも高校生が優勝した

④審判委員会

・アジア大会に印藤氏、ワールドリーグに村中氏、明井氏が派遣されている。オリンピックの決勝を担えるよう期待する。

・Vプレミア特別審判員に正岡氏が選ばれた。

⑤強化委員会

・JOCカップ、国体少年選抜メンバーを報告した。国体は10月18日から始まり、男子は第7シードになっている。


- 5 その他
・特になし

- 6 閉会

【第3回理事会の予定：12月13日（土）北海きたえーる】

議事録署名人

会 長

近藤 龍夫 

議事録署名人

杉本 恵 

議事録署名人

島崎 真知子 
